

平成も 28 年、西暦も 2016 年、月日はあつと言う間に過ぎてしまう。今年は私も満 80 歳を迎える予定である。

昨年を振り返ると、一言で言えば充実した 1 年だった。15 年続いた「くわな歴史と文学を語る会」を解散し、時間的に余裕が出来るかと思ったら「諸戸徳成邸の保存・活用を考える会(略称 諸戸徳成邸の会)」の活動が忙しくなった。諸戸徳成邸を桑名市が買い取り保存する方針を市長が発表して、大喜びしたが、その後に某市会議員が反対を表明した。それも罵詈雑言の発言であり、桑名市会議員の品格を貶めた。しかし私たちは「諸戸徳成邸の会」の体制を確立し、諸戸徳成邸の清掃・草刈りなどに努め、特別公開をしてきた。今年も粛々として保存・活用に努めたい。



諸戸徳成邸の保存・活用を考える会の幟

近清商店製の鳴海紋の生地を書家一ノ瀬芳翠さんの染筆

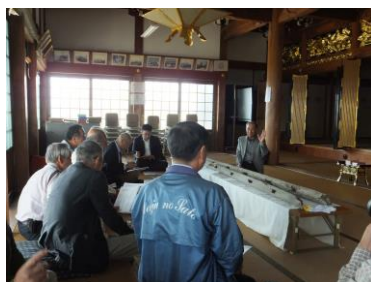
近年の私の活動の 1 つの柱である「北勢線の魅力を探る会」は年 2 回のウォークを実施している。昨年秋のウォークは過去最高の参加者であったが、スムーズに実施できた。全国的な鉄道遺産の集会にも北勢線の魅力を紹介する機会が与えられ、そのご縁で今年 1 月にはドイツから見学に来てもらうことになっている。私たちの活動は微々たるものであるが、地域の足である北勢線の存存に僅かながら寄与出来ていると自負している。



北勢線馬道駅ホームの上屋には

1903 年ドイツ製のレールが使われている

長島下坂手の仁了寺に保存されている梯子の残片のことが気になっていたが、長島在住の桑高同窓会の役員から情報を得て、仁了寺を訪問し、現物を見せてもらった。豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に、軍船を下坂手で造ったが、その時に使った梯子であるという話が伝わっている。1次資料に欠けるが、現物を見る限り素人には本物と思える。ともかく記者会見をして新聞に書いてもらった。次の段階として材料の年代測定をしてもらうことを考えている。



仁了寺での記者会見

桑高同窓会では創立百五周年記念総会をホテル花水木で行った。5年前の百周年事業のうち残っていた諸事業が終了したので、私は会長の職を辞する積りであったが、後任の会長に引き受ける人がいないので、私が続投することになった。今後のことを考えて、一部の役員を更迭し、戦後生まれの人材を選んだ。また今までは女性は1人だったが、3人の女性になってもらった。今後の活躍を期待したい。



ホテル花水木での総会

昨年の年末年始はインフルエンザで大掃除も出来ず、文字通り寝正月だったが、今年は2年分の掃除も済まし、新年を迎えることが出来た。年齢を考えると十分な活動は出来ないが、なによりも健康でありたい。